

議員とカダる会（議会報告会・意見交換会）報告書

開催日時	平成27年10月25日（日） 13時30分～15時30分
開催場所	アピオ青森 2階大研修室
会場責任者	工藤 健
記録者	赤木 長義、山脇 智
出席議員	渡辺 伸広、木戸 喜美男、軽米 智雅子、舘山 善也、藤田 誠、 里村 誠悦、中村 美津緒、丸野 達夫、藤原 浩平、奥谷 進、 工藤 健、仲谷 良子、赤木 長義、竹山 美虎、小豆畑 緑、 小田桐 金三、山脇 智 以上17名 ファシリテーター 青森中央学院大学准教授 佐藤 淳 先生
参加者数	21人(全参加者39名)
報告内容	① 平成27年度青森市一般会計補正予算（第4号）の修正について
報告に対する 質疑・意見・回答 の要旨	質疑：なし 意見：なし 回答：なし
報告内容	② 青森駅周辺整備推進事業について
報告に対する 質疑・意見・回答 の要旨	佐藤先生：どなたか青森駅はあなたにとってどういう存在か、ご発言いただける方、手を挙げていただけませんかでしょうか。 市民：青森県の玄関口、顔だというふうに考えております。イメージとすると、我々もよく使うんですけど、最近よく思うのは県外から本県に来県した人々にとっての玄関口。青森県ってこういうところなんだなーというイメージを抱く存在なんじゃないかなというふうに思っております。 佐藤先生：ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。 市民：青森に来てっていうのは私昭和29年3月下北の高校に勤務するために出発した懐かしい場所です。それから子供たちが3人とも青森駅を経由して、東京に、北海道に出しております。それからよく青森駅から東京や北海道に行くものですから、駅の脇のリンゴ屋さんがとても懐かしいです。以上です。 佐藤先生：ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか。 市民：私自身は生まれが本町なんです。ただ駅を利用した回数というのは、そんなになくてですね、遠方に住むおじいちゃんの家に行くときの連絡船だとか、修学旅行だとか、数回しか利用していないんですね。ただ駅舎、駅自体に思い入れはないんですけど、生活をしていただけで

すから、お母さんに手を引っ張ってもらって新町に買い物に出たり、自転車乗れるようになったら走って回った新町通りだとか、通った塾が駅前だったりとか、そういう意味で生活としては、駅の周辺をすごくたくさん利用してたわけなんです。

ですから駅自体には思い入れないんですけど、私の生活の中心として、心のよりどころとして、いつも駅がそこに、中心にあった。精神的なつながりはあったんだと思います。そして今40手前の年になりましたけど、その思いは変わっていないというのが私の思いです。

市民：別にこれとって思いであまりないですけど、私小さいころは新城のほうに住んでましたんで、ちょうど中学校の修学旅行がですね、十勝沖地震があったんですよ。それで岸壁が壊れて、船でないんじゃないか、そればかり心配してね、修学旅行に行けないんじゃないかとハラハラした思い出があります。それだけで、別に駅はあまり利用したことはございません。それだけです。以上です。

佐藤先生：ありがとうございます。あとお二方くらいお話ししたいんですけど、そちらお二人続けてお願いいたします。

市民：私も青森駅は使用したということは、あまりなかったです。仕事の関係では使ったことありますけども、それほど頻繁に使うということじゃなくて、あまりいい思い出はないです。先ほど市議員の方も言いましたけども、彼女と別れた場所でもあります。

まあどういう存在かという、私はみすぼらしいと思っています。弘前駅も新しくなりました。秋田駅も新幹線がきて新しくなりました。青森駅だけなんでっていう、思いが強いです。

佐藤先生：ありがとうございます。いい意見がいっぱい出てくるので、あとお一人かお二人にお聞きしたいんですけど、どうぞ。

市民：もう青森駅は必要ないと思います。別に使っている人も少ないですしね、これからますます人口も減っていくわけですからね。駅がなくても生活はしていけますし、バス停とかは当然なければいけないですけど、別に青森駅がなくても、市民の大多数は必要ないのではないかと私は思っています。

佐藤先生：では今日の一番のメインのところでございます。青森駅周辺整備推進事業について気になるところについて、ご発言いただきたいと思います。こちらからは、ほとんど答弁はない形で、みなさまからご意見を伺うということですのでどなたかご発言を、どうぞ。

市民：この問題ですけど、駅周辺整備推進事業となるとアウガ問題必ず入ってきますよね。一般論ですけども。あんまりテーマが広すぎて、駅を語るのかごちゃごちゃする感じになってしまう気がします。

佐藤先生：どちらでも結構です。どうぞお考えになられていることをご発言いただいて結構です。はい、ほかにどうぞ。

市民：立て続けにすいません。先ほど駅舎自体に思い入れはないといったんですけど、駅は心のよりどころ、ランドマークとして必要ということを前提で言います。

そもそも青森駅周辺整備推進事業なんですけど、もともと青森市のまちづくりの根底には、コンパクトシティ推進の計画があったと思うんですよ。私これについてはすごく賛成してまして、これからの社会動向、効率よく、コンパクトに街をちっちゃく密度をギュっつつくっていくというのはすごく大事なことで、そもそもこの言葉が生まれたのが青森市が世界で初めてらしいんですかね？違うんですか？日本中、世界中の都市が今青森市を差し置いて推進している状況が見てとれるかと思うんですけど、そもそもこのコンパクトシティ構想がある時点で、駅周辺整備推進事業をする、しないという議論をすることが、不思議なんですけど、できればぶれないでやってほしいというのが本心にあります。

いまたくさんいる市民の中で、コンパクトシティ計画をどれくらいの市民の方が、何パーセントくらいが理解というか推進の考えをお持ちなのか、あるいは議員さんの中で何パーセントくらいが推進の考えをお持ちのかなというのは、気になるところです。

佐藤先生：コンパクトシティ構想があるんだから駅の整備はやるべきだろうと、簡単に言うところのご意見ですね、ほかにございませんでしょうか。

市民：今日は議員の数と、市民の数がほとんど一緒くらい、大変貴重な機会をいただいてありがとうございます。大きな問題いただいてありますので、しゃべるほうも苦勞しておりますが、先ほど駅周辺整備推進事業、藤原議員のほうからご説明ありましたが、実はあの話の平成26年から今日までの話と、実はそれに先立つ10年ほど前の話を言わないとよく理解できない。

それから先ほどご説明いただいた後に、商工会の若い会頭が2年の冷却期間はまずい、早くという話があり、そのあとまた流れが少し変わったという現実も私あると思っております。

さて、今日司会の佐藤さん、会議の仕方を我々にいつも教えているわけですが、それだけ不自由になるのもあるかなという思いもしております。しかも1人一回ということで、一回でしゃべれるのか私不安な気持ちもありますが、せっかくですので少しお話申し上げたいと思います。

最初の一人一人の駅に対する思い、これは個人的な思い、パーソナルな部分であります。一方では都市における駅の機能、役割、いわば社会

的な広がりの問題。

これは2つに分けなければいかんと思っております。当然、佐藤進行係はその辺十分ご理解いただいたうえで進めていただいていると思っておりますが、個人の思いと、社会性を持った駅の機能、これはきちんと整理して議論するべきではないかと思っております。

2分以上しゃべれないということで、もう2分経ったかもしれませんが、最初の問題は、青森市が平成16年に青森駅周辺整備基本構想をまとめました。その前に委員会がありましてですね、青大の先生が議長になりまして、いろいろ議論しました。

5回ほど委員会開いたと思いますが、2回ほどやった中でその時は青森駅を橋上駅にすると人工地盤を作って東西をアクセスさせる、いろんな機能の可能性がある、答申で出ておりましたが、3回目の会議で突然市のほうから橋上駅はやめましたという話が出て、私は呆然としました。エッそれを前提で議論させたのに、もうちょっとちゃんと説明してくれよ、無礼ではないかと私はしたことがあります。

たぶんそれはですね、橋上駅にすると二百数十億円かかるという試算が途中で出たからやめたと、私は思っております。

さてそれを踏まえながら、水面下でいろいろ作業は始まりました。そしてこれも7年前くらいになるんでしょうか、皆さんご承知の通り、青森駅の将来の可能性、昭和43年に作った建物、老朽化している、新幹線の問題もある、いずれあそこは手をつけなきゃだめだという共通のコンセンサスがあったと思えます。それを前提にしてどういう可能性があるのかというなかで、これはちゃんとコンサルも入れて、JRも入れて、青森市も入れて、3者でこの問題を議論しようじゃないかとスタートしたのが、例の700万円の予算の問題であります。ところがやはり街というのはなかなか難しいものがありまして、新たな時代が始まったときにこのプランは市民の理解を得られないということで、予算の執行を突然停止したわけであります。

決してこの時には、この場所にあれを作ろう、これをやろうということではなくて、いろんな可能性を議論しようという予算であったつもりが、何かしら市民の理解を得られないという名のもとに、突然JRのほうにも仁義を切らないでやってしまったという、これが最初の問題だと思ったと思っております。

このとき実は、JRの問題非常に難しいですよ。県ですらJRと交渉というのは、難義、苦行、JRは強いですよ、東日本からすれば青森なんてのは、何のことはない街であります。それを何の仁義も切らないで、予算やめましたと、そこでまずボタンが掛け違っておりました。

ごめんなさい、途中でやめますから。

佐藤先生: 今日人数が少ないので何回もしゃべれると思っておりますので、すごくいいご視点をいただいたと思えます。駅に対するパーソナルな思いと駅舎の社会的な役割は違うだろうと、これは本当に考えなければいけないと思えます。

個人としては全然使わないんだけど、駅は大事だってなるかもしれないですし、思いはあるけど駅はいらないとかの判断になるかもしれませんし、そこは分けてというか、両方ともきちんと考えながらやっていくのが大事だと思います。ほかにご意見ある方いらっしゃいますか。

市民：青森駅周辺整備推進事業ですか、これをニュースで見ますと、新町周辺、駅周辺が大変話題になっている、問題になっている、そういうふうな感じするんですが、西口開発には一向に触れてない気がするんですよ。西口もそうですけど、本当に駅周辺であれば、新町だけではなくて、西口、それから古川とかあの辺のことも全部一緒に進めたほうがいいと思うんですよ。金がかかりますけども。

ひろしさんは売れてますけども、鹿内博さんは同じひろしでも、私は全然違うと思うんですよ。何かどっかがずれてるんじゃないかと思うんですけども。

佐藤先生：このあたりのことは議員さんのほうから少し、駅周辺整備推進事業は新町だけというわけではないですよ？その辺説明できる方していただいたほうが。

工藤議員：青森駅周辺整備推進事業はですね、西口も計画に入っております。ただどうしても青森駅周辺整備推進事業ですけども、青森駅が中心になって新町というよりも、ウオーターフロントのほうも含まれますので、厳密にいうと新町商店街が含まれるということではなく、青森駅、ウオーターフロント、西口、自由通路も含めてということです。

整備事業の事業費の内訳の中にも、西口の整備費用は入っておりますので。

佐藤先生：よろしいでしょうか？ほかにもどうぞご意見ある方いらっしゃいませんか。

市民：先ほどどなたか駅の役割とありましたね、社会的な役割、それで今現在青森駅の役割とは何なのかと、それをもうちょっと考えたほうがいいんじゃないかと、私も先ほどの方と一緒に青森駅の開発は必要ないと考えている1人ですけど、そもそも青森は最初貿易港から始まっているわけですよ。当時は船の時代でしたから、それが鉄道になって今の青森駅の周辺が発展してできた街と、で当時船で流通だったころは堤川のほうが栄えてたと、当時堤川界限はにぎわっていたと、堤川の商店街もすごかったと、諏訪神社の宮司さんも再興しようとするぐらい頑張っていたわけですが、とうとう現在あの通りです、アーケードもなくなりました。それは結局駅ができて駅が古川まで来て、駅を中心としたまちづくりになったから、これは北海道と青森の物流の拠点として栄えたというのがあると思うんですよ。

ところがいま青函トンネルができて物流がいつてしまうと、あるい

は素通りしてしまうと、また車社会になりまして高速もいっぱいできて、物流は車の時代になったと、そういう時代において今青森駅の役割は何なのかと、ましてや今新幹線が函館まで行ってしまった場合、途中駅になってしまうんじゃないかなという市民の意見は結構あると思うんですよ。

そうした場合人の交流もなくなっちゃうと、じゃあ青森駅に何の意味があるのと、ただ市の中心から街をつくるためのそのための駅なのかと、その辺をもう少し考えて、駅にこだわる必要はないんじゃないのかなというのが私の考えであります。

佐藤先生：ありがとうございます。大変貴重な視点だと思います。駅舎の役割をきちんと議会で議論して、まとめていってよといったご意見だと思います。えーほかにありませんか。どうぞ積極的に、貴重な機会ですから、ここが今日のメインイベントなんですけども・・・はいどうぞ。

市民：私ですね、今年から青森に来ましてその前は25年間仙台にいました。その前は学生時代東京で、先ほど中野でどうのこうのと、それこそ中野にいました。

青森にきて当時、浪打駅ってあって家が浪打駅のすぐ裏だったものですから、浪打駅から青森駅まで電車でいった記憶があります。親父も青森駅で国鉄職員だったので、そういうふうなこともありましてよく使ってた。駅舎には愛着があるし、駅前ってのはイコール市の中心部だっていうイメージがありました。ただ最近帰ってきてからは、昔々の浪打駅はないし、車での移動で駅はあってもなくてもどっちでもいいという感じになっているわけですね。

ただこれは利害関係もいろいろあるんでしょうけども、ひとつ感じたのは、気になることは何ですかとあるんですが、駅前を活性化させるとなった場合に、30年先の青森市はどうであろうか、どうするべきであろうかというのを先に計画立てて、いま整備計画あるらしいんですけど、それネットで見ても変更があったり、何かがあったり、わかりにくくてですね、今一度青森市がどういうまちづくりをするんだっていうことを全体的に総合的に汲んだうえで、青森駅は今の場所でもいいのか、あるいはいま早急に、地下通すのか歩道つくるのかわからないんですけど、西口を結ぶものをつくっていいのかっていうことはね、つくってもいいんでしょうけど、将来30年後考えた場合に、今の青森駅舎そこにはないと別の場所に移したほうが良いという意見あるわけですよ、新幹線の問題ですとか、そういうものを考えたうえで30年先の絵を作り直すのも必要なんじゃないかというのが1つです。あと・・・

佐藤先生：すいません、あと次の機会に。大変今また素晴らしい視点いただきました。いまの青森駅じゃなくて30年後の青森駅がどうなっているのかということから、駅の問題考えなければならぬんじゃない

ないかというご視点だったと思います。えーとほかに・・・ちょっと待ってくださいまだご発言されてない方優先してまずはやりたいんですけどもいらっしゃいませんか・・・まだ発言されてない方よろしいですか。じゃあ2回目の方もどうぞ。

市民：私は今の駅前よりも新青森駅ができてですね、今の新青森駅を見ますと晩になると照明もない、あるのはただレンタカーのところだけ、せっかく多額のお金を出して市のほうでやってるのにですね、自分たちの駅だと誇りには全然思えないですよ。

視点を变えて今の青森駅ではなく、新青森駅を中心として活性化させていくほうが、これからの青森には絶対に必要だと思います。吉幾三もしゃべっていました。あれは問題あるべ何とかしねがと、私は本当に切実な問題だと思います。いまの新青森駅は本当に悲しいもんですよ。

来年の新幹線函館まで行けばね、ただの通過駅ですよ。もっと大きな視点で考えて、あそこを中心として活性化させていかないと、青森はただのさびれた田舎町になっていきますよと私は思います。

佐藤先生：ありがとうございます。ちょっとずれますけども、新青森駅周辺の整備に関して、議会のほうで説明ありましたら。

工藤議員：すいません、その分野の委員会がないので、詳しく言えませんが、ただ函館に本社がある医療施設がこれからできます。あと最近あのあたりを探っている企業があると耳にしております。

新青森駅、新幹線の駅です。やはり乗り降りされた方には寂しいといわれますが、あそこの整備は時間はかかると思いますが、保留地と呼ばれる空いている土地が少しずつ埋まってきております。函館の大きな病院ができれば環境も変わってくると思いますので、青森市4つの拠点の中に新青森駅も入ってますので、これから政策として進めていくことに間違いはありません。

佐藤先生：はいどうぞ。

市民：2回目の発言ということで、何を話しても司会は褒めてくれるのでたいへん気楽なんですけど、コンパクトシティという話が出ましたが途中で話が変わったので、それ以上深追いをしていないのですが、コンパクトシティはもともとヨーロッパで都市の空洞化の中から、よりコンパクトで合理的で、機能性を持ったまちづくり、経済、社会性、など包括した概念だと思っております。

お話の通り青森は富山市と一緒に第一号の申請をして、それが国で認可されたわけです。ただコンパクトシティは当初から、名前から女性が化粧するようなコンパクトな感じでいいのかと誤解されました。コンパクトシティというのは永遠のテーマだと思っております。

平成50年青森市の人口はいくらになると予測されているでしょう

か。最大で22万人、最小で19万人です。この現実、たった四半世紀25年で人口が3割減るといのは、過去日本は経験しておりません。大変な時代に入ったというのが前提になっております。

そしてコンパクトシティであります、その中で都市の機能を高め、いわば使い勝手の良いまちにしようというのがベースにあったわけですが、残念ながらそれも政策案となりますと挫折するわけでありまして。鹿内市長様が当選されたとき、彼の政策の指標、方針にはコンパクトシティのこの字も書いておりません。一切触れていません。ですから佐々木市政を継承する気はなかった、新たな市政を展開したかったというのがあったと思っております。

さてそのあとなぜかコンパクトシティが一期目の途中から出てきました。なぜ出たかであります。これJRに鹿内市長は行きたい、行きたいと、JRはなかなかうんといわなかったんですが、盛岡に初めて行ったときJRからの話で、青森市はどういう町をつくるんだそれを聞かせてくれと言われた時、初めてコンパクトシティが出ます。それはJRの鉄道事業とコンパクトシティの概念が結構一致するんですね。そういうのもあったし、あるいは政治の絡みもありました。

そして鹿内市長が長期総合計画新たにつくりましたが、その時コンパクトシティという話がちらっと出ました。ただ中身を見ると拠点整備でしかなかった。本当のコンパクトシティを理解した政策はなかった。浪岡もヤードも駅前もやりますよと、拠点でしかなかった。それで青森のコンパクトシティは挫折している。そして中心市街地活性化の二次計画にそれをまた取り込んだ経緯があります。

まあいろんなことがありますんで、もうやめなきゃダメですけど・・・

もう少し広がった、柔軟な議論をさせていただけば、すごく有意義なだと思います。すいません。

佐藤先生：はい、ありがとうございます。数値を見ながら議論するというのは非常に重要で、人口22万人になるので、30年後街の姿どうなるんですかと、そういう時駅の役割どうなんですかみたいな、そんな議論大事だと、すごくいいご視点だと思います。ほかに、先ほどの方どうぞ。

市民：駅周辺で気になることって何ですかってあったんで、我々今モータリゼーションという言葉が古くて、死語になってるかもわからないんですが、買い物するのに郊外のところ、イトーヨーカ堂に行ったり、ジャスコ行ったりするわけですよね、たぶんこれは小さいお子さんいるところはまさしくそのとおりなんだと思います。

私は新町の駅前の店の数は圧倒的に多いわけで、いろいろ選ぶにはいいんですけど、結局下見の段階で200円、300円の金がかかるってのがね、すごく気になることの1つだったんですね。駐車場を無料化に近づけるようなことはできないのかなと、駅前を救う、救うと言ったらおかしいですけど、お客さんを集める手段としてそういう方法はな

いのかなと、もう1つは民間の某大手の企業さんに主たるテナントを1つお願いできればいいんじゃないかと、なんか柳町で千葉室内が撤退している状況からして、空き家はいっぱいあるのかなと、アウガの中でもいいんですが、大手のテナントを、企業さんに来ていただくということでしょうかね、以上です。

佐藤先生: はいありがとうございました。駅の周りに集まってくる工夫にどうすればいいかというお話だったかと思います、はいほかに、どうぞ。

市民: 駅前周辺整備推進事業に関しまして、資料にある通り平成24年の4月に基本計画が策定されているにもかかわらず何も進展がなかった。さらに今になって白紙撤回とか、いろんな話が出ておりますので、本当に青森市として駅周辺を整備する気があるのかなと、私は疑問に感じております。

あと要望で仕事から、県外から青森にお客さんを連れてくるんですけど、その際お客さんを駅まで送り届けるときに、どこが駅なんですか？これが駅なんですか？というのはよく聞きます。それを聞くとせっかく県外から仕事で青森に来てくれたのに、なんかせっかくの仕事も破談になっちゃうんじゃないかという心配さえ感じるときもあります。やはり私は駅は市民の顔であると思っておりますので、豪華な駅とは申しませんが、青森らしい駅にしてほしいと思っております。

あと青森駅は国内でも数少ない終着駅であると感じております。やはり終着駅ですので、終着駅らしい、函館駅のようなバリアフリーと申しますか、プラットフォームに行くのに階段を使わないようなそういう駅舎になればいいなと感じております。

佐藤先生: はいありがとうございました。ほかにご意見ございませんでしょうか、よろしいでしょうか。

市民: 最後に簡単にご説明していただきたいんですけど、今青森駅について必要な方もいれば、必要じゃない方もいると今聞きました。いま新青森のほうも発展させたいということもあるんですけど、いま北海道新幹線が開業することについて、函館市民の方は冷ややかな状況になっております。これが現状です。

なぜかという今第三セクターのいさりび鉄道を使って函館市に入るとというのが聞こえてます。これだったら新幹線で東京まで行って、函館には空港かいさりび鉄道でいったほうがいいんじゃないかというのが大半です。これに対して青森は、先ほど駅はいらないと申した方もいらっしやいましたが、まあ今の段階では必要であると思えます。

そこで青森市民の方にどれだけの力で青森力を出していただいて、今の現状でいいのか、新たな発展の仕方をしたほうがいいのかというのをよく考えて、駅周辺整備推進事業に賛同してもらえればと思いま

す。以上です。

佐藤先生：ありがとうございました。時間もあれなので、私がまとめるというわけじゃないですが、いくつかすごくいい視点をいただきました。

コンパクトシティ政策を思い出したほうがいいんじゃないかというご意見と、あとパーソナルな部分でなく駅の社会的な役割についてももっとしっかり議論してほしいというご意見と、でその駅の社会的役割を考えていくときに30年先の青森の姿どうなっているのかその部分からきちんと考えていかないと、人口も22万人になってしまうときの街のあり方、駅のあり方を考えていったほうがいいですというご意見。大変貴重なご視点をいただきましたのでそれも踏まえて、議会のご議論をしていただきたいと思います。

次の皆さんへの問いなんですけど、この問題について議会がやらなければいけないことは何だと思えますかというのを、この黄色の付箋に書いていただきたいと思います。いまいろいろな視点をいただいたのでダブる部分もあるかと思いますが、またちょっと3分くらいとりますので、駅周辺整備推進事業について議会がやらなければいけないことを書いていただきたいと思います。よろしくお願ひします。それからオレンジ色の付箋は回収させていただきますのでよろしくお願ひします。

佐藤先生：3分たちましたので、書かれています方は書きながら聞いてください。駅周辺整備推進事業についてこれから議会のほうで議論を深めていくということですが、議会がやらなければいけないことについて発言のある方お願ひします。はいどうぞ。

市民：3回目でもよろしいでしょうか？議会は今活性化していると、私は年をとりましたのでやることなくして暇なんですけど、青森の議会、市政を見てますとすごくエキサイティングで面白いし、年をとる暇もないなど私はすごくいいと思ってるんですけど、ここ6年ぐらい見ますというんな問題ありました。

私がメモって、レポート書いてるやつでも13くらいあったんですけど、なかなかその中で理事者ってのはつらいもんですね。必ず意見を出さなきゃだめだと、それに対して議会は批判する。これはもちろん最大の仕事でありますでしょうが、青森の場合は批判でとどまれないんではないかと、いわば立案、提案しなきゃいかんとそういうことが本当にあるんじゃないかと、私提案を出す役割と、そしてそれを批判するだけというのは本当によくないんじゃないかと、ここまで来たら議会で提案する能力、知恵を持たないとダメなんではないかと思っております。

6年間見ていると、大変失礼ながら議員が提案したのは議員の報酬カットに対して、10%という具体的提案をされました。しかもその

後また委員会が8%を提案しましたので、まったくとんちんかんなことになったんですが、議会はもう少し勉強といたしますか、ノウハウを持つ必要があると思っております。

それと地方議会にイデオロギーや派閥はあんまり関係ないのではないかと、やっぱり議員の先生もそう思ってるんですよね。そうすれば、青森市民にとっての与党という観点から、もっともっと都市をどう経営するかと、広範な勉強をされればもっと面白くなると思っております。大変失礼しました。本当に失礼しました。

佐藤先生：はいありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。

市民：2回目になりますけど、今の話私大変納得しました。私書いてたのは、市議会議員の皆さんのお1人ずつの解決策というのをもしあればそれを示していただければいいのかなと、おこがましい、生意気なことを言っているのかなと思いますが、今日浪岡会場でも同じようにやっていると、この問題に大変な危機意識を持って取り組まれてると思うんですね。

こういう意見交換会ですとか、最近のテレビでは市民の人とか一般の国民の人に意見を聞くっていうのが、いろんな人を集めてやるっていうのは確かに重要だとは思いますが、ただそれが過ぎると姿勢を運営している方々の意見が、極端な話ないとか、ブレがあるとか決めきれないから、いろんな人の話聞いてんじゃないかという印象持ちちゃうんじゃないかと思うんですよね。

そこは主体的な場として意見を聞く場はあっていいと思うんですけど、ただ市民の代表の方々だと思うので、私は駅について、まちづくりについてこういう考え方してるんだけど、意見とか、問題点とかないかなとか、こういう聞き方をすることを私は期待しています。こういうことをご検討していただければと思います。

佐藤先生：はいありがとうございました。そちらの方。

市民：議会としてやらなければいけないことと、議員としてやらなければいけないことがあるんじゃないかと、質問を見て思いました。議員として個人ですのでいろんな意見あると思うんですが、議会としてということでは1つにまとまってほしいなと、しかるべき方向に導いていくってのはあれなんですけど、向かっていく必要があるというふうに感じました。

ですので前の方と一致する部分もあるかと思いますが、その部分での意見調整といたしますか、イデオロギーも含めてですけどそういったことの調整を図っていただければと感じました。

佐藤先生：ありがとうございました。ほかにございませんでしょうか。

市民：私の誤解かもわからないけども、新聞みて自分で判断しますけども、青森市議会の議員さんとは言わないけども、なんか向こうのJRに行って、いいお茶、高いコーヒーごちそうになってる、外交辞令そのまま受け取ってくるのかなという感じはします。正直なんですよ、よく言えば。悪く言うと子供なんですよ。

あのJRの言うことをさ、県議でも市議でも、私は鹿内市長の取り巻きでも何でもありませんよ、鹿内市長が雪問題でも大臣に会えないとかさ、そういう風潮が強すぎるのかなって、雪問題でも鹿内市長ちゃんと津島恭一さん政務官の時にちゃんと陳情しているでしょ。なんか自虐的だなという感じがします。後でもう一遍発言します。

佐藤先生：そろそろ時間がないんですけど、20秒、30秒くらい発言してもよろしいですよ。よろしいですか、ほかにこのテーマでありますか。じゃあどうぞ、最後にもう一度ご発言あるんですよね？

市民：私は第1回の時にも述べたんですが、駅自由通路ですね、金もないのに何すんだっていう意見が強かったんですけども、ここ何日か西口のほうに歩いてみますと、あのあすなろ橋ではちょっと怖いぐらいです。

財源が許すのであればやはり、気持ちが変わりました。ぜひ自由通路をつくってください。

ただ私反対だっっていうのはね、ややもすると目的が物販、スペースがそれになっちゃうんですよ、それには私反対です。

佐藤先生：ありがとうございます。この趣旨とは違うんですが、大変にいいご意見と申しますか、気持ちが変わったというのは凄いいいというか、討論のムードで行きますと、自分の意見が正しいんだとファイトポーズしてやりますけど、対話に加わっていろんな意見を聞くともしかするとこっちのほうがいいんじゃないかという意見になった。それはきっといい意見というか、よりいい答えに行きついていくと思うので、イデオロギーや派閥抜きで議論っていうのはそういうことになってくると思うんです。

そういう議論をして、批判するだけじゃなくて市に駅はこういうふうにしたらいいんじゃないか、と議会として市に言っていくというのがあるべき姿で、それに対するご意見を市民の皆さんからいただいたということだと思います。ここで青森駅周辺整備推進事業についての議論はいったんここで切らせていただいて、ここで休憩に入りたいと思ったんですが、時間がだいぶ押しておりますので、このままここで自由な意見交換会に移らせていただきたいと思います。

<p>意見交換内容 (質疑・意見・ 回答の要旨)</p>	<p>佐藤先生: 皆様が生活されている中で様々問題を感じていること、議員の皆さんにお話ししておきたいというふうなことがございましたら、挙手をしてご発言のほうをよろしく願いいたします。それから黄色い付箋のほうは、いま議員の方が回収しておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>どなたかご意見ある方、時間がありますので時間以内であれば。</p> <p>市民: 自分の意見を変えるというのは大変勇気がいることで、青森市でも意見を変えるということで大きな問題があると思っております。いま駅の問題は第5回検討資料ということで、現在の青森駅をどう変えるかという最後の提案であります。</p> <p>ですがこの委員会も5回ほどやりまして、青森市の地元の委員はほとんどが反対しました。面白くないということですよ、確かにこれはですね、再開発のビルと東西通路と駅舎を作るということだったんですが、その時に理事者の方はですね、皆さんの意見はわかりました、次にデザイン会を開くのでといったんですが、実はデザイン会開いておりません。</p> <p>それから大変国鉄というのは難しいんですよ。たまたまスタートにあたってコンサルが入らないと、コンサルが入らないとJRが苦勞すると、ここにJRの案がありますけど、駅で人がおりてまた乗ってとそういうレベルでしかないです。非常に貧困です、もっと議論すべきです。</p> <p>それから再開発ビルやらないというのは確認できてるんですよ。再開発ビルやらないとすれば駅の顔がないんです。その時に東西通路だと、2階に挙げた事務所をつくと、それを前提にして議論してどうするんだと、しかもそれを前提にして安くするだとかの議論は成り立たない。再開発ビル、駅の顔、さまざまな機能、これをやらないとすれば、これをもっと安くしろとこれを議論すること自体がナンセンスだと、むしろ鹿内市長の2年間凍結は正しい判断であったと簡単じゃないよとなったんだと考えております。</p> <p>この辺をもう少し議論してほしい、つまりこのプランは一から見直さなければならぬということです。</p> <p>もっと安くする、小さくする、さらにこれはもっと高度な話でしょうけど、駅の北側に圧倒的空き地があります。さらにこれから機能も変わります。そういうことを踏まえて議論をしていかなきゃならないと思っております。それから新幹線の駅舎に将来の青森をとということですが、あそこはまだ国道と旧道がアクセスできないいわば袋小路であります。</p> <p>あの距離から言いますと、青森の中心地を形成するのは物理的に厳しいかなと、しかも今病院ができるとか、駅の前は民地で売っておりますので、あそこを将来の最大の空間にするのは、難しいと感じております。</p> <p>これも状況が変われば変えなきゃいかんなどと思いましたが、今青森</p>
--------------------------------------	---

市は庁舎問題を言っております。庁舎の場所は議員の皆さんけんけんがくがくの議論しまして、決まりましたら一旦熱が冷めたと思っております。

これから議論しなければならないのにみんなシレっとしてますよね、この前議会の中間報告会何人集まったと思いますか、32名です。市民も冷めてるこれは残念だと思っています。申し訳ない。そしてさっき私人口問題言いました。平成50年に人口が下手すれば19万人、最大でも22万人、人口統計ってのは当たるんですよ。長期的には完全に当たります。

その時に1期工事、2期工事、1期工事は100億円というスケールで出ておりますけど、実は1期工事が2万3500平米ぐらい面積が取れます。そして2期工事は将来また考えるということにしているんですが、実際は25万人の場合国の基準では、2万5000平米あればいいということになっているんです。そしたら2期工事いらないんですよ。現実には、それで今の庁舎建設は今の4000坪を利用した形で行われていますが、きわめてむだ。

将来的な状況が変わったのであれば、2期工事はしないそういったことで予算の問題、工事の問題考えるべきであると思っております。大変申しわけありません。皆さんも申しわけありませんでした。

佐藤先生:ありがとうございました。市庁舎の整備についてももっと考え直す必要があるんじゃないかというご意見だったと思います。ほかにございませんでしょうか、駅の問題だけでなくなんでもけっこうですけども。

市民:アウガの問題について、議員の方から1人代表してご意見を伺えればと思います。というのは、アウガが最悪潰れたとすれば、青森の負債が二十何億円ですか補助金を出して運営してきてますけども、潰れることはないと思いますけど、潰れた場合結局それを税金で補わなければならないわけですね。二十何億円というのは大金ですよ、我々の大切な税金をですね、いつでも税務署から取られる感じにいるわけですよ。

その大切な税金をただただ議論もしないで、入れればいいという感じで運営していると思いますけど、だれか議員の皆さんで自分が市長であればアウガをこういうふうに運営するという意見がうかがえれば大変ありがたいと思います。だれか代表して答えれる方。

佐藤先生:会の性格上個人の誰かの考えというのは、なかなか発言できませんので、今の議会での議論の状況とかだれかご説明していただけませんかでしょうか。

工藤議員:アウガの状況ですけども、皆さんご存知の通り、青森市の市のお金はですね、約23億8千万円ほどになります。アウガ自体の全債務は32億円です。皆さんご存知の通りとても厳しい状況で、アウガに

については今年の12月までに東京のプロジェクトチーム、弁護士さんと公認会計士さんと企業家の方の提案を受けて、それをどういう提案になるか、かなり厳しい提案になると思いますけど、それをきちんと履行するとそれが大きな条件となっております。

その中身が今は全然わかりませんので、市の24億円を放棄しろという中身になるのか、地権者の皆さんの問題に触れるのか、あるいはアウガ全体をどうするかの方性になるのか、内容についてはわかりませんが、このままでは成り立たないというのは、皆さんもご存知の通り、議会のほうも重々承知しておりますので、先送りだけはできないとおもっています。

どうすればいいという段階でもないとは思っておりまして、そのプロジェクトチームの提案を受け止めて、いかに履行できるかに尽きると私は思っているんですが、いかがでしょう。

赤木議員：補足しますけどまさに今工藤議員が言ったとおり、まず提案が出てくると、それに基づいて、市がそれなりのアクションを起こすと思います。そこで議会としての判断が出てくるのかなと思います。

いずれにしてもこの問題はいろいろ複雑なものが絡み合っていますけど、だれのため、何のためというのが議会として常に問われているものであって、一部の地権者のためのアウガでもないし、一部のテナントの人たちのためのアウガでもないし、やはり24億円という税金を使っている以上、すべての市民にとって一番メリットのある形に持っていくのが、議会として最善の判断をしていく必要があると思います。

佐藤先生：はいほかにご意見、はいどうぞ。

市民：3回目ですいません。アウガの話が出たので、個人的な要望というか検討事項なんですけども、私個人的に考えているのは大学が駅前にほしいなという希望があります。

私いま27歳で、大学終わって4年県外にいたのを戻ってきて、青森市内で5年目過ごしております、若い人が高校生までは制服をきているのをよく見かけるんですけど、19歳から22歳の充実した期間を過ごしている若者を見かける機会がなくて、ちょっと物寂しいなって考えているんですが、意外と私なんか大学卒業して5年たった世代の人たちと話す機会があるんですけど、意外と青森好きで戻ってきたという人多いんですよ。

なんかきっかけあればいいなと思っていたのが1つと、今アウガの話出たので、勝手ながらしゃべるとアウガの中に公立大学が入って、あそこは文系の大学だから教室だけあれば何とか大学できるかなとかです、商業施設はどこ行ったらいいか駅に新しく商業施設できるから、そこに行ったら一件落着になるのかなとか、思ったりしたんですけど。

いろいろ大人の事情もあって、予算とか難しいものもあると思うん

ですけど、こういうことふと思ったりとか、若手は若手でいろんな事考えてますから、大学生佐藤先生も中央学院大学の先生ですから聞くことあると思いますけど、ウオーターフロントのこととかワラッセの近くに砂浜入れて盛り上げようとか、豪華客船は飛鳥Ⅱはじめ県内22回も寄港するようになってきているとか、オーストラリアのインバウンドとかグローバル化も進んで英語を話せる学生がいたらいいんじゃないかとかいう視点もあって思うこともあったので、ただテナント入れればいいのかじゃなくて、若者の視点、学ぶ視点とかも入れてもらえれば、いいなと思った次第です。以上です。

佐藤先生：ありがとうございます。青森公立大学は入ってますよね。

赤木議員：一部入ってます。

佐藤先生：それを活用してほしいと？

市民：一部でなく、まるっとですね。

佐藤先生：なるほどそういうご視点ですね。ほかにはいじゃあそちらの方から順に。

市民：駅周辺の施設、駅周辺の整備が早めに必要だと思うんですけど、いま多分東京オリンピックが終わるまでは資材がどんどん高騰してあって、ますますこの後予算厳しくなるだけだと思うんです。

それと青森駅ってのは津軽線とか青い森鉄道、奥羽線などいろんな路線が乗り入れている駅で、青森県内の顔といってもいいと思うんですけど、そういう駅は早め早めに手を打っていくと、例えば東西通路完成すれば人の活性化も生まれるだろうし、それでアウガとかサンフレンドビルのこの後のいく先も見えてくると思うんです、いいほうに行くと思うんです。議論も大事ですけど、スピードも大事だと思ってます。以上です。

佐藤先生：ありがとうございます。ほかにございませんでしょうか、はいどうぞ。

市民：アウガのこととか、駅前のこととか具体的なことではないんですが、いろいろ関連すると思うんですけどやはり市民の人の意見が冷めるとか、注目が薄いと、議会の意見がマスコミ通じてしか伝わってこないということがいろいろある中で、時々思うんですが議会の傍聴というのがハードルが高い。

平日の日中にしかできていない、インターネットだったり、青森の場合ケーブルテレビありますけど、やはり生でライブで見ることが重要なんではないかと、大変失礼な言い方をすると、議員の方々も緊張感出

るだろうし、その中で今のアウガの問題であれ、駅の問題であれ、ほかの問題でも、市民の中に伝わっていくのかなと感じることがあります。いろんな問題あることは理解できるんですが、議会の時間をですね、土曜日だったり、夜間、夕方だったりとか、日曜日だったりとか、いうふうにはできないものか。

いろんな大人の事情あると思いますが、それが本当に市民の目線に立ったことになるのかといいますと、どこが主体なんだって話になってくると思うんですね。青森市議会ではそこもコンパクトにするという視点で、ご検討いただけないかという意見でございます。

佐藤先生:ありがとうございます。市民の関心を高めるために傍聴しやすい環境整備をというご意見だったと思います。はいほかに。そちらのかたどうぞ。

市民:先ほど議員の先生から、アウガをどうしようという段階ではないという言葉があったので、とても言いづらいんですがわたし他県から夫の転勤で青森に来まして、1年少し経ちました。

現在3歳半の息子がおります。みなさんみたいなすごい具体的なことは言えないんですが、ちょっと小さい子供を連れて暮らしていくには、大変なところだなという印象があります。

いろいろありますけど、アウガのことについて言わせていただくと、せっかくさんぽぽ、支援センターがあるのに、それだけで子ども連れて行ったときに食べれる飲食店もないですし、もっとちっちゃい子どもを連れていける飲食店とか、こどもふく売り場とかあれば相乗効果があるんじゃないかと常々思っていました。

小さい子どもが入れる飲食店がないところから話を広げさせていただきますと、青森にきまして食の安全とか、子どもの健康とか安全にすぐ意識が薄いような印象があります。

子どもの虫歯率、肥満率が高いのも来て初めて知りまして、そういうことを啓蒙していただく働きがあったらいいなと思います。あとここに医療関係の方がいらっしゃるんですけど、本当に青森市内でいい小児科があったら教えていただきたい。みんな入り口が汚くて、清潔感もなく、雰囲気も暗くて、小児科に行くのが本当に大変です。

あと子どもの健康で言いますと、冬はこもりきりになりますので青森は海も山もありますし、本当はもっと思う存分そり遊びをさせたいんですけど、市役所に電話をかけてそり遊びをする場所を聞いたら、公園は全部雪捨て場になっていて、そり遊びをするには勧められない場所だって、そういうところから肥満率も増しているんじゃないかと思えます。

プロジェクトチームの方が、東京の弁護士さんとか、公認会計士さんとか、飲食店経営のオーナーの方々だということですけども、もうちょっとアウガに来てほしい層の一般の人たちの意見を聞いてほしいとい

うか、もう既にあって私が知らないだけかもしれないですけど、もっとこうあってほしいというのを、来てほしい人たち、一般の人たちにも聞いてほしいと思います。

佐藤先生：ありがとうございました。県外から来られた子育てされてるお母さんの貴重なご意見です。もっと言いたいことあると思うので、終わった後でも聞いてあげてほしいと思います。どうぞはい。

市民：駅前、街中見てますとシャッターが閉まっているところがあると、私思うんですよ、どうしてシャッター閉めていつまでも入れるのと、店主商売やってる人だったら、店開けて商売すればいいじゃねえか、そうおもうんですよ。

まあ客来ない、店を開けても赤字、そういうことだと思うんです。需要と供給のバランスが悪いからこういうふうな状況になると思うんですよ。お客さんが来れば店出すんですよ。

お客さん来ないから店閉めてるわけ。どうしていつまでもこうしてできるかと、店主の方が用地転売とかできないという法律的な問題もあるかと思いますが、こういうものを解決していかないと、ただ公的資金を投入して用地開発しても、一時的には人が集まってくるかもしれませんが、それが20年30年続くかってなったら、根本的なものを解決しない限り私は続かないと思います。

だから議員の皆さんはこの辺のことを突っ込んで、市民の方からアンケートをもらうだとか、そのアンケートも形骸的に駅前開発必要ですかと、寂れてるもの、わかっているんだもの誰だって必要だと答えるでしょ、市民はおそらくイエスと言います。

だけでもそのあとの、もっと突っ込んだアンケートを青森市議会のほうで市民の方に配って、もっと市民の意見を深く突っ込んだアンケート用紙にしてほしいですよ。ただ開発は必要ですかと、寂れてるんだから当然必要ですよ。

じゃあどういう施設が必要ですかと、大型ショッピングセンターとかさ、若い人が住める、買い物に行けるとか、うちの女房とか娘も青森市内で買い物しないちょっとしたファッションとかエルムに行っちゃう、五所川原のね、帰りラーメン食ってくるんですよ、何で青森にもいっぱいいいものあるんでないと……。

佐藤先生：すいませんそろそろお時間が、シャッター街何とかしろというご意見で。

市民：そうですね。

○閉会のあいさつ

○終了

記録者所見	<p>今回の議会報告会はとくに市民の皆さんのご意見を聞いて、市政・議会に反映するという趣旨のもとで開催されました。議会報告会の中では、市民の皆さんから、様々な観点から、たくさんのご意見、要望を出していただきました。これからの市政に生かしていけるよう、議員各位が責任をもって、議会活動に取り組んでいく決意です。</p> <p>一方で報告議案に対し、議員がどのような考えを持っているのか、示したうえで市民の声を聞くべきだ、という声も出されました。</p> <p>これからの議会報告会に、今回いただいた市民の皆さんのご意見、ご感想を反映し、よりよい議会報告会を目指していきたいと思えます。</p>
-------	---

※写真添付必須のこと

青森市議会議長 様

平成28年 1月20日

上記の通り報告いたします。

会場責任者 工藤 健

出席議員 渡辺 伸広

木戸 喜美男

軽米 智雅子

舘山 善也

藤田 誠

里村 誠悦

中村 美津緒

丸野 達夫

藤原 浩平

奥谷 進

仲谷 良子

赤木 長義

竹山 美虎

小豆畑 緑

小田桐 金三

山脇 智







